

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

さまざまな器材に囲まれて血液や尿などの分析に取り組む伊藤さん。私たちの身の回りにあるすべての物体が分析の対象となるため、広範な知識、分析能力が求められる。近年、多様化している薬物については特に勉強が必要。



2



3

2

伊藤さんが研究発表を行った大阪での「日本法科学技術学会」。写真は学会後の懇親会での一コマ。右端が伊藤さん。大学や他県の科捜研の人々と大いに交流を深め、情報交換を行い、有意義な時間を過ごした。

3

山形県警察本部刑事部科学捜査研究所の一室。分析・鑑定する物体に合わせて機器分析が行われる。意外にも家庭的な雰囲気が漂う職場ながら、いざ分析に臨む際の表情はみな厳しく、緊張感が感じられる。

理科好きが高じて論文理学博士に。 その知識や経験を科学捜査に生かしています。

伊藤さよ 山形県警察本部刑事部科学捜査研究所 勤務

世の中で起こるさまざまな事件や事故を科学的観点から調査し、解決・解明へと導く科学捜査研究所。テレビドラマで取り上げられたこともあって華やかなイメージがあるが、「仕事自体はとても地味で地道な作業です」と伊藤さん。山形県警察本部刑事部科学捜査研究所(以下、科捜研)の女性職員第一号であり、現在も紅一点として活躍中の伊藤さんは大学院理工学研究科の修了生。中学校でユニークな理科の先生と出会い、答えもプロセスも理路整然としている理科という学問が性に合っていたため、伊藤さんは中学ですでに理学部への進学を志望し、そのプランに沿って高校も選んだという。大学では持ち前の探求心から徹夜で研究に熱中したり、友達と大いに遊んだり、とにかく何でも楽しんだ

学生時代だったと当時を振り返る。大学院の修士課程を修了し就職する際には、結婚・出産後も研究職を続けたいという思いから公務員を志望。数ある公務員職の中でも、純粋に化学と向き合いつつ人の役に立てる仕事として科捜研という職場を選んだ。実際、一児の母となった今も、周囲の理解や協力を得ながら伊藤さんはイキイキと仕事を続けている。

科捜研の中でも化学担当は伊藤さんを含めて4名。山形県内で起きる化学的鑑定を必要とする案件のすべてをわずか4人で分担しているのだ。仕事は血液や尿中の麻薬や毒物の分析、轢き逃げなど交通事故での車の塗膜や繊維の分析、いろいろな現場に出向いての事件検証などであるが、時には裁判所で化学的な所見を求められることもある。伊

藤さんたちが下す鑑定結果が、事件に関係する人々の人生を変えてしまう場合もあるために、非常に責任の重い仕事として緊張感を持って日々の鑑定にあたっている。

進歩の著しい科学の世界。つねに新しい情報に敏感でなくてはならないし、より高度な知識が求められる。伊藤さんは卒業から10年以上たった今でも、ときどき山大の恩師を訪ねるといふ。大学ならではの専門性の高い最新の科学情報を入手できるし、何よりいつも先生方に温かく迎えられホッと気持ち癒やされるからだ。地元の大学にして本当によかったと思えるひととき。数年前には、後輩たちに科捜研の仕事に関する講義を行ったこともある。山大との人的・科学的交流はこれからもずっと続いていくことだろう。

探究の成果